

鹿浦大橋と鹿浦溪谷

この 全長 157m の荒福橋は、鹿浦川が徳之島の石灰岩台地に気の遠くなるような時間をかけて作り出した見事な溪谷に架かっています。島の内陸にある犬田布岳から流れる川は、やがて 6 km 下流に位置する鹿浦の漁港から海へと注ぎ込みます。溪谷の両側は、最も高いところで谷底から約 100m もの高さにそびえています。1995 年に建設されたこの橋からは、鹿浦溪谷とこの地域に広がるほぼ手付かずの原生林の林冠を鳥瞰する貴重な景色を楽しむことができます。

孤立からの脱却

この橋と他の 2 つの橋が建設される前は、この地域に暮らす人々は近隣の地域へ向かう際、急峻で木々の生い茂る溪谷の斜面を登ったり下ったりすることを余儀なくされていました。バスの運行が開始されるまで、子どもたちは片道 3 時間も歩いて学校に通わなくなりました。これらの橋は、他の地域へのアクセスを容易にし、島のこの地域に多大な影響を与えました。

過去の栄光

河口に位置する鹿浦は、かつてサトウキビの輸出で栄えた活気ある港町でした。しかし、時とともにその座は他の港に奪われ、かつての繁栄をしのばせるものはほとんど残っていません。